

表題：第16回瑞穂町の協働を考える会議 概要

- 1 日 時 平成26年8月13日（水曜日） 18時30分から20時00分
- 2 場 所 町民会館 第1会議室
- 3 出席者 （構成員） ※以下出席者について敬称略
榎本和己、加戸佐織、香取幸子、川口尊、古宮郁夫、清水久央、
中沢清、野本多恵子
（瑞穂町協働施策推進アドバイザー）
辻山幸宣
（事務局）
栗原裕之（住民部長）、古川実（住民部地域課長）、水村探太郎（住民部地域課地域係長）、吉岡佐知代（住民部地域課地域係主任）、福島聡（住民部地域課地域係主任）
- 4 欠席者 近藤隆幸
- 5 議 題 1 （仮称）瑞穂町協働宣言（案）について
2 その他
- 6 配付資料 1 次第（当日配付）
2 第15回瑞穂町の協働を考える会議まとめ（当日配付）
3 （仮称）瑞穂町協働宣言（案）修正案（当日配付）
4 職員意見募集結果（内容に関する意見）（当日配付）
5 提言書（案）（前回のまとめ）（当日配付）
6 職員意見募集結果（内容以外の意見）（事前配付）
- 7 あいさつ
栗原部長
- 8 開会
古宮座長

議題1 （仮称）瑞穂町協働宣言（案）について

事務局の説明

- ・ 協働宣言の内容については本日確定させたい。
- ・ 意見募集とパブリックコメントを踏まえ修正した。職員から内容や表記に関する意見等を100件前後いただいた。修正内容は文章の意味を変えてしまうものではなく、日本語の使い方等について見直したものである。本文の体裁についてお図りしたいのと、副題については皆さんの話し合いにより決めていただきたい。

【意見】

1 副題について

- ・ 流れがとても良いので原案が良いと思います。意味合いも他の候補と比べても、さほど変わらないのではないかと思います。
- ・ 職員の意見を読ませていただきましたが、この場で議論している空気感と文章だけを見た職員の意見では違うものだなと思いました。意見の中には「汗を流す必要があるのでしょうか。」というものもありましたが、文章の意味だけ取ってみると確かにそうなんだろうなというところもありながらも、空気感は大事にした方が良いと思いました。ただし、もっともであるという意見もあったので、取り入れる部分とそうでない部分をしっかり棲み分けした方が良いと思いました。
- ・ 「みんなで楽しむ」となっていますが、理念を見ると「私たちはみなで考え」と「みな」となっているので、できれば一緒の方が良いのかどうかですね。
- ・ 厳密に言うと「手を取り合い」の方が良いとは思いますが、副題は現状のままでも問題はないと思います。

2 副題以外について

2-1 宣言文全体についての意見

- ・ 1行目の「身近な自然」というのは分からなくもないですが、「身近にある自然」の方が、分かりやすくすっきりしていると思います。
- ・ 「国道16号」が消されていながら、青梅街道だけで「など」となっています。2つ入れて「など」とした方が良いと思いましたので、「日光街道」を入れてはどうでしょうか。
- ・ 「みな」を「みんな」にするのは賛成です。
- ・ 「分かち担い」も分かりますが、何かぎこちない感じがしますので、「担い合い」にしてはどうかと思います。
- ・ 「つながろう 人と人」のところで、「瑞穂町に関わる」という表現は曖昧な感じがしますので、「瑞穂町の誰もが」とした方が良いと思います。
- ・ 瑞穂町の宣言なので「瑞穂町に関わる」という表現はいらないと思います。
- ・ 「瑞穂町に関わる」という言葉が気になるのでしたら、「誰もが」から始まっても良いかもしれないですね。
- ・ 「住む」という言葉を入れたから、「瑞穂町」が必要でしたよね。「住む」を消した以上は、「瑞穂町」を除いても良いかもしれません。理念にも「瑞穂町」が出てきますので、他の箇所にはなくても良いのではないのでしょうか。
- ・ 「住む」という言葉があったので、住んでいる人だけではないという職員の意見も出てきた訳ですね。

- ・ 変にこだわりすぎた部分もあったかもしれませんね。
- ・ 「瑞穂町」を入れるか入れないかは、パブリックコメントでも職員意見でも意見はなかったなので、ここですっきりさせてしまっても良いと思います。
- ・ ここではあくまで案ということですから、この会議としての意見をまとめれば良いと思います。
- ・ 「分かち担い」のところですが、「分かち合い」としてはどうでしょうか。言葉として「担う」というのは分かりづらいと思いました。「分かち合い、ひとつになることで」とした方がすっきりすると思いました。
- ・ 「分かち担い」となると少し荷が重い感じがしますね。

※ 出された意見をもとに宣言文全体について、多数決を行いました。結果は下記のとおりです。

身近な自然	→	身近にある自然
国道16号など	→	日光街道など
みな	→	みんな
分かち担い、そして	→	分かち合い、
瑞穂町に関わる	→	誰もが

アドバイザーからの意見

副題以外について

- ・ 内容をどのように表現するかですね。文章上気になるところでは、「つながろう 人と人」のところで、文頭の「誰もが」と2行目の「子どもからお年寄りまで」は同じことなのかどうかです。後は、流れの中で、「子どもからお年寄りまで誰もが」としてしまって良いものか、あるいは、「共に生きていくために、優しさがあふれ」としてしまって良いものかです。

2-2 多数決後、方針1「つながろう 人と人」についての意見

- ・ 「縁やきずな」から始めて、2行目の「子どもからお年寄りまで」を「誰もが」に置き換えてはいかがでしょうか。
- ・ 「誰もが」と1つの言葉だけで表現するよりも、「子どもからお年寄りまで」という言葉があった方がイメージの広がりや違うような気がします。思い描きやすい言葉を入れるのも良いと思いました。
- ・ 「誰もが」ではなく、「子どもからお年寄りまで」にしても良いですね。
- ・ 「優しさが」を「優しさに」にしてはどうでしょうか。
- ・ 「誰もが」というのは、「関わる誰もが」と前に言葉があったから良かったんで

すよね。「誰もが」を「みんな」としてはどうでしょうか。

- ・ 「みんな」というのは「子どもからお年寄りまで」ということですよね。「子どもからお年寄りまで、優しさにあふれ」とつながった方が感じとしては良いですよ。
- ・ 「瑞穂町に住む誰もが」という1つのセンテンスになっていましたね。「瑞穂町に住む」を消しておかしくなってしまったのであれば、「みんなが」を主語として、「子どもからお年寄り」という言葉は残しておいた方が読んでいてすんわり入ってくるのではないのでしょうか。
- ・ 「みんなが」という主語がなくても、文章的には成り立つと思います。
- ・ 「みんなが縁やきずな」と流れていった方が良いと思います。そうすれば、副題の「みんな」も子どもからお年寄りといった意味合いになって分かりやすくなるのではないかと思います。
- ・ 「つながろう 人と人」となっているので、主語が「人々」ではどうでしょうか。
- ・ 「子どもからお年寄りまで誰もが」とした方が人の範囲が限定されなくて良いと思います。
- ・ 「子どもからお年寄りまでの誰もが」とすれば綺麗に流れるのではないかと思います。
- ・ 「共に生きていくために」を強調するのか、「優しさがあふれ」を強調するのか、場所によって強調の仕方が変わると思います。
- ・ 「子どもからお年寄りまでが縁やきずなを感じ」となっていると少し重い感じかなと思います。

※ 出された意見をもとに方針1「つながろう 人と人」について、多数決を行いました。結果は下記のとおりです。

1 つながろう 人と人

みんなが、縁やきずな、喜びを感じ、共に生きていくために、子どもからお年寄りまでの誰もが、優しさにあふれ、心が通い合う温かい人間関係を築きます。

3 その他

- ・ 「縁」の読み方ですが、本来的な意味合いとしては「エニシ」となるかもしれませんが、一般的には「エン」かもしれません。読み方は、事務局では「エン」で問題ないでしょうか。→（事務局）問題ありません。
- ・ 本文にルビを振る訳ではないですよ。→（事務局）振りません。
- ・ 「4 育てよう 新たな出会い」の「人と人の」ところは、「人と人との」とし

た方が良いのではないのでしょうか。

- ・ 「人と人の」と「人と人との」はどちらが正しいのですかね。→（事務局）用例をいくつか当たってみて、多い方を採用するという形でよろしければそうさせていただきますと思います。

結 論

- ・ 副題については原文どおり「手をとって みんなで楽しむ まちづくり」に決定しました。
- ・ 宣言文全体的な修正については、多数決により下記表のとおり修正することとしました。

場所	修正前	修正後
理念 1 行目	身近な自然	身近にある自然
理念 2 行目	国道 1 6 号など	日光街道など
理念 7 行目	みなで	みんな
理念 8 行目	分かち担い、そして	分かち合い、
方針 1	瑞穂町に関わる誰もが縁やきずな、喜びを感じ、共に生きていくために、子どもからお年寄りまで、優しさがあふれ、心が通い合う温かい人間関係を築きます。	みんなが 縁やきずな、喜びを感じ、共に生きていくために、子どもからお年寄りまでの 誰もが 、優しさにあふれ、心が通い合う温かい人間関係を築きます。
方針 4	人と人のつながりや	※

※ 方針 4 の「人と人のつながりや」について、「人と人の」と「人と人との」ではどちらが適切かの判断を事務局一任としていただきました。調査の結果、瑞穂町第 4 次長期総合計画に「人と人とのつながり」と表記されている箇所があること、また、他自治体の計画等においても、「との」と表記されて場合が多いことから、「との」に修正することとします。

アドバイザーからの講評

- ・ このような宣言文等は後々の解釈論に入っていく世界です。そのため、できるだけ解釈ができる幅を残しておくのか、ある程度イメージをつくって解釈の余地をできるだけ残しておくのかがあります。あまり解釈の幅を広げていくと何を言っているのか分からなくなります。
- ・ 先程、私が気になったこととして、縁やきずなを大事にしていくのは誰で、人間

関係をつくっていくのは誰か、これが別々なのか一緒なのかというところを言わせていただきました。おかげさまで、文章は随分すっきりしたのではないかと思います。そういう意味では、恐らくこの宣言が出た後もこの解釈について意見を述べたり、意見を求められたりということがあるのかと思っています。こういうことはあらかじめ念頭に入れておいた方が良いでしょう。

議題2 協働宣言の実現に向けた提言について

※ 時間の都合上、事務局説明のみ。ワークショップ等は次回に持ち越し。

議題3 その他

事務局の説明

- ・ 現在協働宣言についている（仮称）と（案）について、全員協議会に提示した後、協働宣言の策定について理事者に報告する際、（仮称）と（案）を取りたいと考えている旨を報告
- ・ 産業まつりの開会式後に、宣誓のセレモニーを計画している旨を報告
- ・ 次回の会議日程を調整